

アリスの家

小宮 一仁

ケンブリッジ大学時代の同僚でアメリカの大学に移ったアメリカ人の友人が、「お前の家のことが書いてあるぞ」と言
ってアメリカからわざわざ本を送ってくれました。’Singing
Line’ という名前のその本は、イギリスの政治ジャーナリス
トである Alice Thomson という人が、彼女の高祖父である
Charles Todd 卿にまつわる物語を綴ったものでした。それ
は、卿が、後にロンドンとシドニーを結ぶ電報網の礎になる、
オーストラリアのアデレードからダーウィンに至る長距離
電信を完成させた物語です。

Charles Todd 卿は、私がケンブリッジ大学に勤務するちょうど 150 年前の 1848 年に、天文・気象観測者・電子工学者としてケンブリッジ大学に正式なポジションを得てグリニッジから赴任します。そして、1855 年、政府の郵政局長として英領オーストラリアに渡ります。その直前、卿はケンブリッジで出会った Alice Gillam Bell と結婚し、二人で渡豪しました。（この本の著者は、この高祖母と同じ名前です。）オーストラリアで Charles Todd 卿は大きな成功をおさめ、長距離電信及び海底ケーブル技術のパイオニアとして英国の貴族に列せられました。またその名声は、最大の電報局が置かれ卿と妻の Alice Todd が住んだ街が、妻の名前をとって Alice Springs と名付けられる程でした。

私がケンブリッジ大学に勤務していた時に住んだ家は、Alice が生まれてから卿と結婚するまで家族と暮らした家でした。16 世紀後半に建てられたその家は、1950 年から英国重要建造物 (Listed Buildings of United Kingdom) の Listed Grade II に指定されています。毎週末、隣のキャベンディッシュ研究所の次に私の家の前で観光ツアーの一団

が立ち止まり、市のツアーコンダクターの大声が聞こえていたので、当時から Charles Todd 卿と妻の Alice のことは知っていました。そして、私の手柄ではないにしても、住んだ家のことがこういう風に本に出ていることを知って少し嬉しくなりました。

令和3年11月22日